

FM English Basic を受講して

5期 グループC

1. 背景

アカデミックライティングとは、論文やレポートなどの学術的な文章を書くスキルのことを指す。学術的文章は序論・本論・結論の構成に従い、論理的な展開と適切な語彙の使用、明確かつ正確な表現が必要である。これらの知識を独学で習得することは可能だが、厳格なルールを完全に網羅するには限界がある。さらに、アカデミックライティングに必要な基礎的知識を学ぶ機会はほとんどなく、誤った知識で論文を記述、投稿しても受理されるのは非常に困難である。つまり、アカデミックライティングを学ぶことは学術論文を執筆する上で極めて重要である。

2. 目的

短期間の集中講義にて、アカデミックライティングの基礎を理解し、明確で科学的な執筆能力を習得する。また、英語でのプレゼンテーションに必要なスキルを学習する。

3. 授業内容

本講義は7月31日～8月3日の4日間（1日あたり4時間程度）、臨床講義棟2階大講堂にて行われた。テキストを使用し、各单元について問題を解いたり少人数のグループでディスカッションをしたりして理解を深めた。1～3日目はテキストを使用して、剽窃の定義・種類、英文記載時の各種ルール、語彙、構成などを学んだ。最終日の4日目は、3日間学んだアカデミックライティングの原則を研究のプレゼンテーションに応用した。受講生が自身の研究分野からトピックを1つ選び、5分間のプレゼンテーションを行った。また、他の受講生のプレゼンテーションに対する評価を行った。

使用テキスト: Bailey, S. (2018). *Academic writing: A handbook for international students* (Fifth edition). New York: Routledge.

ISBN: 978-1-138-04874-4

4. 結果

本講義を通して、アカデミックライティングの基本を学ぶことができた。集中講義で行われたことにより、テキスト全体を網羅的に進めることができ、短期間で効果的に学習することができた。一方で、時間あたりの学習量が多く、テキストの進度が駆け足になってしまうこともあった。また、4日目のプレゼンテーションでは、まず紹介文献を選定する段階で、トップジャーナルに掲載されるような模範的な論文をアカデミックライティングの観点から読み直す機会になった。そして、プレゼンテーション自体も普段英語で行う機会は少なく、他者から直接の評価を受ける機会も少ないため、今後の国際学会等での発表の参考になる内容であった。また、非ネイティブ話者の英語でのプレゼンテーションにおいて最も重要なことは、聞き手が理解していることを確認しながら行うことであると学んだ。PCの画面やスクリーンを凝視することを避け、発表中は聞き手との双方向的なコミュニケーションを心がけることが重要である。

5. 研究や仕事に生かせる点

前項で述べた通り、本講義では主に論文執筆における基礎知識を学習したため、我々が今後自ら論文を作成していく段階で、本講義の内容が参考になると考えられる。また、プレゼンテーションの訓練を行い、さらに他者のプレゼンテーションを評価する側の立場も経験したことにより、プレゼンテーションで注意すべきポイントを押さえ、今後の英語での発表機会への備えとなる内容であった。

6. 改善点・限界点

本講義はすべて英語で行われた。個々の英語能力によって理解度が左右され、学習習得度にばらつきが生じた可能性がある。本講義は4日間の集中講義によって行われたが、約300ページの教科書を4日間で終了する行程となっており、1日あたりの学習量がとても多くなっていた。4日間という期間は学んだことを今後活用していくためには十分な時間ではなかった可能性がある。よって、今後も継続した学習が必要と考える。

今回アカデミックに書く方法を学ぶことができたが、スピーキングやプレゼンテーション方法についてはレクチャーがなかった。多くの日本人は英語のスピーキングに特化した教育はされておらず、プレゼンテーションについても特化した教育を受けていないことが多い。そのため、スピーキングやプレゼンテーションに特化した講義もあるほうが今後の国際学会でのプレゼンテーションについて検討する機会となり、国際的に活躍する人材になるためのよいのではないかと考える。

今回学生同士でプレゼンテーションを評価しあう形式となったが、講師から評価をしてもらう方がプレゼンテーションの改善に繋がるのではないかと考えた。

7. 結語

今回のFM English Basicを通じて学術誌に掲載できる論文の作成方法を学んだ。今回学んだことを活かして、国際的に活躍できる人材になるためにも英語の継続学習が必要である。